

2019年度 事業計画

(2019年4月1日から2020年3月31日まで)

伝統のかおり 高き学園を目指して

学校法人 修道学園

2019年度 学校法人修道学園事業計画

＜法人本部＞

主要項目	具体策	所管部局	実施月
1 法人運営の充実	(1) 法人としての自律的なガバナンスの改善と強化 <ul style="list-style-type: none"> ・中長期計画(事業計画及び財政計画等)の策定 ・役員の実任権限等の明確化 ・監事機能、評議員会機能の充実 	法人事務局	年間
	(2) 情報公開の推進と経営状況の「見える化」 <ul style="list-style-type: none"> ・財務諸表、事業報告書、監事監査報告書等の公表 ・寄附行為、役員等名簿の公開 	法人事務局	年間
	(3) 三様監査の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・監査法人との密な連携 	法人事務局	年間
	(4) 設置学校に係る関係所轄庁等への対応 <ul style="list-style-type: none"> ・学部設置等に伴う履行状況報告、指摘事項等への対応 ・寄附行為の変更、学則改正等関係所轄庁等への諸手続き 	法人事務局	年間
	(5) 人事、給与等処遇に係る基本的事項の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・定年制、職務及び給与体系等の整備 (コンサルタント業者の活用) 	法人事務局	年間
2 資産の運用	(1) 大学部 運用目標10億円 (2) 中高部 運用目標1億円	法人財務課	年間
3 施設の整備	(1) 中高部 <ul style="list-style-type: none"> ・本館の建替計画の策定－設計監理社の選定、基本設計等 	法人財務課	年間
	(2) 協創中高部 <ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド、体育館等の改善計画の検討 ・新校舎(中学校棟)の建設 ・3号館の改修(教室整備) 	法人財務課	年間
4 その他	(1) 学園創始300年に向けて 諸事業の準備 (2) 浅野氏入城400年記念事業への参画 (広島市、広島県等との連携) (3) 寄付金の募集	法人事務局	年間

2019年度 学校法人修道学園事業計画
 < 広島修道大学 >

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管 部局	実施月
I. 教育と学生支援の充実				
1. 教育の質保証と充実	1) 学士課程教育の充実	①全学的カリキュラム(修道スタンダード・グローバル科目・共通教育科目)の検証を行い、新カリキュラムの改正時期を設定する。 ②大学設置基準との整合性に留意し、補助金の獲得も視野に入れた各種公開事項の整備を実施する。 ③「高等教育無償化」の要件を充足するための体制を整える。	教学C	2月 1月 1月
	2) 大学院課程教育の充実	①大学院設置基準を充足させる教員の採用と審査についての点検と確認を強化する。 ②内部質保証を確保するため、シラバス内容、素点評価、その根拠資料の標準化について検討する。	教学C	2月 11月
	3) 授業アンケート等のあり方と活用方法の検討	①授業アンケートの現状分析(運用・実施結果) ②授業アンケートの見直しの検討 ③その他(公開授業のあり方等の検討)	学長室	8月 11月 年間
	4) 学生の学習行動、学修成果の把握	①IR機能の充実 (学習成果指標の開発検討とデータ更新による分析強化)	学長室	年間
	5) 学習支援体制のあり方の検討	①初年次教育と「修大基礎講座」のあり方の再構築	学習支援C	年間
	6) 文部科学省ACへの対応	①人文学部教育学科(設置4年目)への対応・報告 ②健康科学部(設置3年目)への対応・報告 ③国際コミュニティ学部(設置2年目)への対応・報告 ④文部科学省指摘事項についての検討・対応	学長室 教学C 国際C 人文学部 健康科学部 国際コミュニティ学部	5月 5月 5月 年間
	7) 新設学部等の円滑な運用	①2018年度の指摘事項について整備し、完成年度を見越した対応を実施する。	教学C	5月末
2. キャリア教育の充実	1) 全学的キャリア教育(支援)体制の構築に向けての検討	①キャリア教育運営委員会での検討 初年次生から学年進行に応じた全学的体系の模索 ②他大学調査 キャリア支援体制、コーオペ教育(学外就業体験型学修との連携教育プログラム)等に関する調査 ③1~2年次を中心とした各種ガイダンス等の在り方の再考、改善、実施 ④学生個々の成長の履歴計測の試行への着手 学生個々のPROG測定結果、企業見学バスツアーやインターンシップ参加状況、資格取得状況、各種ガイダンス・セミナー等参加状況、就職活動状況などを関連づけ、学生の成長度を計測し、キャリア教育の在り方の改善、工夫に繋げる。	キャリアC	5月~3月 7月~9月 年間 年間
	2) 採用環境の変化に応じた各種ガイダンス、セミナー等の実施	①早期化する企業の採用環境に応じたガイダンス等の開催時期、対象学年、コンテンツの改善、実施 ②キャリア教育支援と就職支援の接続を意識した施策の構築 ③広島経済同友会、広島県中小企業家同友会、中国経済連合会等との連携強化(起業・創業、事業継承支援の模索/地元企業経営者の協力を介したキャリア教育支援・就職支援体制の模索)	キャリアC	年間 年間 年間
	3) 新学科、新学部の特徴にそった進路、就職先の検討及びアプローチ	①保育士、管理栄養士の受入れ先について、自治体、施設、企業との接触、情報収集	キャリアC	年間
	4) 全学的インターンシップ体制の整備	①大学におけるインターンシップ体制の検討	教学C キャリアC 国際C	年間
3. グローバル教育の充実	1) グローバルコースの見直し	①グローバルコース見直しのためのワーキンググループを発足させる。 ②学生募集や大学広報との関わりが大きいと、関係部署との連携を図る。	国際C	5月 年間
	2) 派遣留学事業の推進	①これまで協定校のない国・地域での新規協定校開拓 ②経費負担を軽減した新規海外セミナーの検討 ③派遣留学に関する広報時期及び広報手段の検討	国際C	年間 年間 年間
	3) 学生の海外派遣支援制度の見直し	①海外派遣(海外セミナー、グローバルコース)の財政面支援制度の検討 ②学外制度の利用による財政支援の検討(JASSO等) ③交換留学の派遣先の待遇(宿泊費免除等)に関する交渉	国際C	12月 年間 年間

区分 (中期事業計画)	主要項目	具体策	所管 部局	実施月
4.学生生活支援	1)課外活動支援と活性化への検討	①既存の課外活動支援制度の見直し及び新たな課外活動支援制度の検討と導入 ②大学スポーツ協会(UNIVAS)への対応と本学スポーツ活動支援の推進	学生C	8月 年間
	2)障がい学生支援への対応	①学生受け入れ体制の整備と構築 ②エレベーター、自動扉、身障者トイレ等整備検討と提案 ③支援機器の検討整備及び既存機器の貸出実施	学生C	年間 8月 4月
	3)高等教育無償化への対応	①高等教育無償化対象大学への確認申請・準備手続き ②事務手続き体制の検討と実施 ③継続時の成績審査基準等の検討と整備	学長室 財務部 学生C 教学C	前期 後期 後期
	4)奨学金制度の見直し	①在学生スカラシップ規程の給付金額及び採用人数の検討と見直し	学生C	7月
II. 研究活動の推進				
1.研究活動推進・支援	1)研究活動推進に向けた教員個人研究費制度の見直し	①個人研究費制度の見直しと予算計上方法についての検討 ②制度の見直しに伴う教員個人研究費規程の改正	財務部	3月 3月
2.産学官連携リスクマネジメント	1)産学官連携リスクマネジメント	①知的財産権取扱規程の制定 ②秘密情報管理の整理 ③産学官連携リスクマネジメント人材の育成	ひろみらC	9月 3月 3月
	2)研究活動推進・支援	①研究業績のリサーチマップへの移行 科学研究費助成事業の応募に、業績入力が必要なResearchmapの活用と本学教員DBとの関連の検討	ひろみらC	9月
III. 地域連携・地域貢献				
1.地域連携・地域貢献の推進	1)地域連携事業の推進	①協定先との協定内容に基づいた教育・研究・まちづくり・人材育成等についての協働の推進 ②NEXTひろみらプロジェクトの再検討	ひろみらC	年間 年間
	2)スポーツ・文化活動を通じた地域貢献の推進	①地域連携実施団体への支援体制の検討	学生C	年間
IV. 入試制度の整備と志願者の獲得				
1.入試制度の改革	1)入試関係	①入試制度改革 2021(平成33)年度大学入学選抜実施要項の見直しに係る予告について(通知)(平成29年7月13日付)等に基づき、本学の「大学入学選抜改革」を検討し実施する。また入学後のIRデータを基に、継続して入試制度を検討する。 ②広島修道大学ひろしま協創高校からの附属校推薦入試基準、推薦枠の検討 ③指定校推薦入試、附属校推薦入試のネット出願の実施	入学C	4月 9月 11月
	2.入学定員厳格化対応	①厳格な入学定員管理を可能とする制度の検討と実施	入学C	年間
	3.志願者の獲得	①募集広告についての効果測定 GMS(接触者情報分析)とGoogle分析の活用 ②入試情報サイト改修 2018年度～2019年度にかけて、WEBサイトリニューアルの実施	入学C	年間 7月
V. 大学組織・運営の強化				
1.組織改革・改善	1)学部・学科改組の検討	①学部等改組ワーキンググループの検討・設置 ②収容定員(入学定員)のあり方の検討	学長室	4月 年間
	2)大学院改革の検討	①大学院組織のあり方の検討	学長室 各研究科	年間
	3)事務システム・業務の改善	①出張申請・旅費支給の運用方法の見直し ②出張支援システムの導入に関する検討の実施	総務部	4月～9月 4月～9月
	4)新財務システムによる決算業務	①新財務システム移行後、初となる2018年度決算の確実な遂行	財務部	5月

区分 (中期事業計画)	主要項目	具 体 策	所管 部 局	実施月
1.組織改革・改善(続き)	5)図書館機能の充実	①図書館ホームページをリニューアルし、利用しやすいデザインへ変更する。 ②資料保存及び電子図書館としての機能の充実を図るため、現在のデジタルアーカイブをFlash(2020年12月サポート終了)からIIIF(International Image Interoperability Framework)に準拠したものへの変更を準備する。 ③屋上庭園の利用方針を策定し、利用に向け整備を図る。	図書館	3月 10月 10月
	6)機関リポジトリの管理体制の整備	①2019年4月からの学術機関リポジトリデータベース(IRDB)の変更に伴い、関係部局と調整のうえ、紀要のデータ入力方法を整備する。	図書館	3月
	7)CAT2020対応	①2020年度から変更となる目録システムについて、情報収集を図るとともに、図書システム(LIMEDIO)への影響を見極め、新目録システムへ円滑に移行できるよう対策を施す。	図書館	3月
	8)教育系・事務系ネットワーク機器の更新	①リース調達した教育系・事務系ネットワーク機器を2019年の夏季休暇時に一括更新する。	情報C	9月
	9)新給与体系の構築	①職員の定年年齢の見直し及び定年延長等に伴う人事給与制度の再構築、同一労働同一賃金対応、人事評価制度の処遇への反映等給与体系の改定案を策定する。	総務部	3月
設備・財政基盤の強化	1)寄付金制度の構築	①寄付金募集の具体的な展開を行う。	総務部	3月
	2)資金運用計画の策定	①今後の資金運用の在り方についての検討と資金運用計画の策定	財務部	6月
	3)学内禁煙環境の整備(設備・財政基盤の強化)	①受動喫煙防止のための喫煙場所の見直し、喫煙ルーム設置の検討 ②受動喫煙防止の徹底のための巡回を強化	学生C	6月 年間
VI.危機管理・広報の強化				
1.危機管理の強化	1)大学事業継続計画(Business Continuity Plan)の検討と策定	①危機事象と危機発生後の対応の整理 ②教育活動再開のための課題と対応の検討 ③施設修復・学費減免など財政面の課題整理 ④BCP(原案)の作成に着手 ⑤前年度検討した「BCP対策のためのシステム復旧構想」について、その実現のため機器・機能要件を選択する。	財務部 情報C	3月 3月 3月 年間
	2)危機管理体制の強化	①各種危機管理対象の整理と事象別対応(体制・手順)の検討	学長室	年間
	3)ハラスメント防止の強化	①教職員及び学生に対して、ハラスメント防止方策を検討し、実施する。教職員全員がハラスメントに対する理解をより深めるため、座学の研修会ではなくeラーニングを導入する。	総務部	6月
2.広報・広告の強化	1)広報・広告の強化	①広報・広告戦略(方針並びに事業計画)の策定 ②印刷物・WEBサイト等の課題整理・見直し ③60周年事業を契機とした発信強化	学長室	5月 年間 年間
3.記念事業の実施	1)60周年事業の策定(記念事業の実施)	①60周年記念事業の検討・策定(事業内容・スケジュール・予算等)	学長室	6月
VII.内部質保証				
1.内部質保証の整備と強化	1)自己点検・評価体制の整備	①自己点検・評価委員会のあり方の検討 ②学外有識者等による点検・評価のあり方の検討 ③本学PDCAサイクルのあり方の検討 ④認証評価指摘事項(是正勧告・改善課題)への対応	学長室	6月 6月 年間 年間
	2)教学マネジメントの強化	①シラバス記載についての指針作成とチェック体制の構築 ②成績評価基準の策定と適切な運用・管理の構築 ③全学的FDのあり方についての検討 ④全学と学部・研究科・部局における点検・評価の連携検討	各学部 各研究科 教学C 学長室	年間 年間 年間 年間
	3)教員活動状況評価表の見直しと活用の検討	①教員活動状況評価における評価項目を見直し、評価結果の活用について検討し、実施する。	総務部	3月
	4)教員組織の適切性に向けた計画と管理	①中長期の採用計画の検討 ②AC留意事項への検討・対応(健康科学部・国際コミュニティ学部)	各学部 各研究科 教学C 総務部	年間 年間

2019年度 学校法人修道学園事業計画
 <修道中学校・高等学校>

【教員の部】

主要項目	具体策	所管部署	実施月
I. 学力の向上	1. 大学進学実績の向上		
	①大学入試改革を見据え、進学実績向上のために必要な学力を向上させるために、各教科の授業改善、教員間の連携等について関係部署と協議しながら推進する。	中高両教頭・教頭 補佐	通年
	②数値目標の達成に必要な各部署の課題を明確化し、定期的にその解決の状況を確認する。	中高両教頭・教頭 補佐	通年
	③東大20名以上合格を数値目標として、志望者の増加に向け、生徒に対する進学指導、模擬試験対策、進学情報提供を強化する。また、生徒に対する直接的な働きかけ方を見直す。	進路部・教務部	通年
	2. 学力観の見直し		
	① 2018年度に再構築された教務システムの利便性を高めることで、生徒の学力等を含めた情報の教員間での共有密度を高め、初級中級上級の三段階構想をハイレベルで継続していく。	教務部	通年
	②「探究」のカリキュラム化に向けて教科との連携を取りながら検討を継続する。	教務部	通年
	③新しい学びを推進するための研究を引き続き行い、生徒ひとり一台、一接続の運用に注力し、思考力、判断力、表現力など、生徒の非認知的能力を伸張させる取り組みを行う。	中学教頭	通年
	3. 学習意欲の向上		
	①1・2年のセミナー合宿を実施する。	進路部・担当学年	8月
②4年の東大見学ツアーを実施する。	進路部・担当学年	8月	
③5年の東大・京大セミナーを実施する。	進路部・担当学年	8月	
④中級からの成績優秀者を顕彰する。	進路部・担当学年	8月	
⑤6年のコース別クラス編成の実施に向けての検討を行う。	進路部・教務部・ 担当学年	通年 通年	

II. 国際理解教育の充実	<p>1. 関連行事の実施</p> <p>①2019 年度3年生から始まるフューチャー・リーダーズ・プログラムを実施する。</p> <p>②フューチャー・リーダーズ・プログラムの学習効果を高めるため、事前事後研修を実施する。</p>	<p>育成部・高校教頭</p> <p>育成部・高校教頭</p>	<p>11月</p> <p>通年</p>
III. 倫理観の向上	<p>1. 規範意識や倫理観の育成</p> <p>①遅刻指導, ICT 機器の利用におけるリテラシー指導を学年と連携して強化する。</p> <p>②交通安全に対する意識の向上, 公共交通機関利用時や自転車乗車時のマナーの向上を目指す。</p> <p>③体育祭などの学校行事や宿泊行事の時期および内容の変革を円滑にすすめられるよう準備を整える。</p> <p>2. 自治向上の精神の育成</p> <p>①生徒の主体性を重視した生徒会活動や班活動を通して, 創造力や忍耐力, 協調性を育み, 何事も自分で切り開いていく力を養う。</p>	<p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部</p> <p>生徒部・高校教頭・教頭補佐</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
IV. 教育力の向上	<p>1. 人事考課の実施</p> <p>①校長面談において確認された各教員の単年度目標の機能的展開が可能となるように「個人事業計画書」を吟味し, その計画の実現に向けて, 適宜現場での人事配置、業務改善を図る。</p> <p>②人事考課が公正に行われるよう, 授業観察, 教員へのヒアリング等を通して多角的なデータの収集を図る。</p> <p>2. 教員研修の充実</p> <p>①文部科学省が掲げる「教育の情報化による学びのイノベーション」に本校として対応するため, アクティブラーニング型の授業とも絡めながら, 導入予定あるいはすでに導入した教育 ICT に関する機器について, その教育効果を最大限に引き出すための調査研究を引き続き行い, 適切な教員研修のあり方を探</p>	<p>中高両教頭・教頭補佐</p> <p>高校教頭</p> <p>教務部・中高両教頭・教頭補佐</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>

	<p>る。</p> <p>②初任者研修をさらに進化させ、実りある研修とする。特にタキソノミーテーブルをもとにした授業改善に関する研修は、昨年に引き続き継続しておこない、研究授業発表につながる取り組みとしたい。</p> <p>③教員がチームをつくり、協働型・双方向型の授業や生徒の学習意欲を喚起する授業について研究し、高め合っていく Progress meeting をスタートさせる。</p> <p>④革新的且つ生徒の学習意欲を喚起する授業を校内ネットワークに動画配信し、教員の授業研修に利用する。また、課題のある授業に関しては、動画によりその課題を探求し、校長が直接当該教員と課題解決のための協議を行う。</p>	<p>中学教頭</p> <p>教頭補佐</p> <p>中高両教頭</p>	<p>通年</p> <p>通年</p> <p>通年</p>
V. 生徒募集の充実	<p>1. 広報活動の工夫</p> <p>①スローガンではなく、教育活動の結果を示すスタイルで広報活動の充実をはかる。</p> <p>②本校の教育に対する保護者の理解とロイヤリティを高めるために、保護者対象の学年別校長講演会を実施する。</p>	<p>中学教頭</p> <p>担当学年</p>	<p>通年</p> <p>通年</p>

【職員の部】

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I. 教員事務作業の点検と改革	昨年度に引き続き、教員の事務作業負担の軽減を目指し、事務室が受け持つことができる業務を洗い出し、検討を加える。	事務長 総務課	通年
II. 新本館建築に向けての計画検討	創立 300 年記念行事の一環としての本館新築計画を具体的に進める。	財務課	通年
III. 寄付金制度の運用	構築された寄付金制度を有効に運用し寄付金の増収を図る。	事務室	通年
IV. 浅野入城 400 年に向けて、記念事業の計画検討	浅野入城 400 年の年にあたり、県市の動向を注視しつつ、広報部と連携をとりつつ、藩校・修道としての行事を企画・実施する。	事務室	通年
V. 創始 300 年に向けて、記念事業の計画検討	貴重書籍・収蔵品のデジタル化を進めるとともに、法人と連携を取りつつ、学園史の編纂と記念事業のあり方を検討する。	事務室	通年

2019年度 学校法人修道学園 事業計画
 (広島修道大学ひろしま協創中学校・高等学校)

主要項目	具体策	所管部局	実施月
I 学校組織力の強化			
1. 運営・組織体制の充実	①新しい学校づくりにあたり、建学の精神と教育目標の具現化が絶えず意識されているかどうかを確認する。 ②建学の精神と教育目標に基づいた教職員が取り組むべき具体的事項を「協創スタンダード」にまとめ、校内外に示す。 ③事業計画に基づいた学校経営計画の作成と校務運営の円滑化を図る。 ④各部、中学校、学年、コース、教科の昨年度の課題を踏まえた経営計画の作成とその評価結果の分析及び改善策の策定。 ⑤自己申告書(全教職員)の提出と管理職によるヒアリングの実施によって、学校運営等の共有化を図る。	管理職、校務 運営委員 管理職、校務 運営委員 管理職 各部長、各主任 管理職	年間 年間 年間 4月・10月 5月・10月
2. 教職員研修の実施と充実	①マネジメント研修(主任・部長別、年齢層別)を実施し、組織力の向上を図る。	管理職	6月
II 教育力の強化			
1. 教員の資質と指導力の向上	①自己申告による目標達成に向けて、自己研鑽の状況を適宜面談にて確認する。 ②毎月2～3回実施される「報連相」(連絡会)におけるミニ研修(研修報告等)を充実させる。 ③所属教科及び所属教科外の授業参観による自己研修を実施する。 ④国語・社会・数学・理科・英語の教科指導の工夫・改善のため、広島修道大学との連携による定期的な研修会を継続する。 ⑤2年以内の公開授業研究会開催を目途にした校内公開授業研究会を実施する。 ⑥指導力向上のための校内研修会の実施と校外研修会への計画的な参加の推進。	管理職 管理職 管理職、教務部 管理職、教務部 管理職、教務部 管理職、教務部 他	年間 年間 年間(定期) 年間 年間(定期) 年間
III 学力の向上			
1. 進路目標実現に向けた方策	①進路指導計画(進路シラバス)の作成と進捗状況の確認をする。 ②進路数値目標の設定及び達成に必要な課題等を各教科・部署で確実に共有する。 ③クラッシーを活用したポートフォリオの作成やスタディサプリによる学びなどを拡充する。	進路指導部 進路指導部、 教務部 教務部、進路 指導部	年間 4月、8月、 12月 年間

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 学力伸長に向けた方策	<p>①生徒が朝読書を万全に取り組めるよう、活動の点検と指導を徹底する。</p> <p>②探究的な学び（エミット学習）、ICT教育（iPad 導入）などの新しい学びを推進する。</p> <p>③教科ごとに明確な経営計画を作成し、生徒の学力伸長に向けて効果的な学習指導を推進する。</p> <p>④中学校及び高校各コースに応じた学習指導と進学指導を適切に強化する。</p>	<p>協創教育部、 国語科、LRC</p> <p>協創教育部、 教務部</p> <p>教務部 各教科主任</p> <p>教務部、進路 部指導、各主 任</p>	<p>年間</p> <p>年間</p> <p>年間</p> <p>年間</p>
IV協創教育の推進			
1. 次世代教育の推進	<p>①探究型学力や次世代教育（ICTを含む）の推進と共に今後の方向性を研究する。</p> <p>②探究科で展開する新たな学び（ICT活用、課題研究等）のシラバス作成と学習活動の実施。</p> <p>③高校国内研修旅行の企画・立案及び事前事後学習指導の実施。</p>	<p>協創教育部</p> <p>協創教育部</p> <p>協創教育部</p>	<p>年間</p> <p>年間</p> <p>年間</p>
2. 国際理解教育の推進	<p>①広島修道大学との連携による各種国際交流活動の企画と推進。</p> <p>②海外提携校との交流活動の企画と運営。</p> <p>③海外研修制度（語学研修、ホームステイ、現地交流等）の案内と参加の推進。</p> <p>④高校海外研修旅行の企画・立案及び事前事後学習指導の実施。</p>	<p>協創教育部</p> <p>協創教育部 協創教育部</p> <p>協創教育部、 外国語科</p>	<p>年間</p> <p>年間 年間</p> <p>年間</p>
3. 社会参画教育の推進	<p>①探究科「課題研究」の1テーマとして地域参画を設定し、その研究に対する指導・助言を行う。</p> <p>②地域清掃などの地域貢献活動への参加（広島修道大学との連携を含む）を促す。</p>	<p>協創教育部</p> <p>協創教育部</p>	<p>年間</p> <p>年間</p>
V自立（律）心の育成			
1. 規範意識を育むための生徒指導の実践	<p>①男女共学化に伴い、日常の指導や対策は勿論のこと、全校集会、学年集会等を通じて従前以上に生徒の意識向上を図る。</p> <p>②建学の精神と教育目標に基づいた生徒が取り組むべき具体的事項を「協創スタンダード」にまとめ、校外外に示す。</p> <p>③安全教育（交通安全、薬物、校内安全等）及び性教育等の各種講演会を通じて生徒の意識や徳性の向上を図る。</p> <p>④携帯電話・スマホの校内持ち込み許可に伴い、その正しい使用法やSNSの正しい利用法についての指導を徹底する。</p>	<p>生徒指導部</p> <p>管理職 生徒指導部 (生徒自治会)</p> <p>生徒指導部</p> <p>生徒指導部</p>	<p>年間</p> <p>年間</p> <p>各年1回</p> <p>年間</p>

主要項目	具体策	所管部局	実施月
2. 学校生活の活性化	①部活動の加入率を高めるための対策を講じると共に、文武両道の方向性を示し、有意義な学校生活のあり方を推進する。 ②生徒自治会の活性化のため、役員の記事(体育祭、文化祭、クラスマッチ等)企画能力、運営・実践能力の向上を図る。 ③生徒が主体的に行事に参加する機運を高めるための方策を継続的に検討する。	生徒指導部 生徒指導部 生徒指導部	年間 年間 年間
3. 教育相談活動等の充実	①S C (スクールカウンセラー) の活用とS C と連携した担任の生徒面談の実施。 ②S C と各学年との連携のための連絡会(ケース会議) の設置と実施。	生徒指導部 生徒指導部、 学年主任	年間 各学期
VI情報発信力と募集力の強化			
1. 年間を通じた計画的な情報の発信	①ホームページ及びその更新が情報発信の最たる手段との認識のもと、継続的な発信と更新を強化していく。合わせて、「学校通信」の定期的な発行を継続する。 ②P T A、同窓会への本校の情報発信と連携の強化を図る。	管理職、企画 広報部、庶務 部 庶務部、総務 課	年間 年間
2. 保護者及び生徒との信頼関係の構築	①保護者及び生徒へのアンケートを実施し、その結果による改善策等の提示を確実に行う。	教務部、庶務 部	7月、12月
3. 募集・広報活動の継続的な展開	①校名改称、新校舎移転、男女共学化による募集活動成果を決して単年度で終えることのないよう、継続的な広報活動を展開する。 ②広報活動に加え、「協創フォーラム」を実施し、ブランド力の充実に資するようにする。	管理職 企画広報部 管理職、企画 広報部、協創 教育部	年間 年間 年3回
VII施設設備の充実と環境整備の改善			
1. 事務システムの改善	①給与システムと財務システムの運用のマニュアル化を行い、幅広い活用を行う。	総務課、財務 課	年間
2. L R C の活用	①各教科等との連携を図り、L R C の有効活用を図る。	総務課	年間
3. 新校舎及び既存棟の環境整備	①校舎移転による移設物整理を行い、男女共学に応じた環境整備の改善を行う。	財務課	年間